

災害時の健康

出血・骨折時の応急手当

大災害時には、出血・骨折といった傷病を負うことがあります。通常なら、医療機関を受診し、治療するところですが、災害時は、交通機関も使えず、行くことができない状態になる可能性があります。そこで、今回は出血・骨折時の応急手当の方法を説明します。

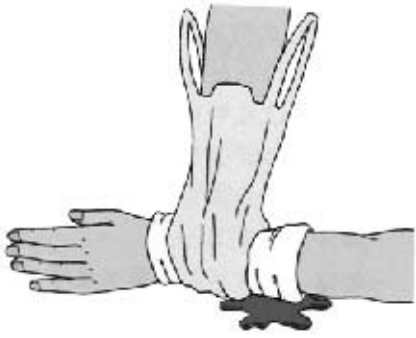
出血したとき

一般的に体内の血液の20%が急速に失われると出血性ショックという重篤な状態になり、30%を失えば生命に危険を及ぼすといわれています。

そのため、出血量が多いほど止血手当を迅速に行う必要があります。

出血時の応急手当

- 1、出血部位を確認します。
- 2、出血部位を押さええます。



ビニールなどを使用した直接圧迫止血法

- きれいなガーゼやハンカチ、タオルなどを重ねて傷口に当て、その上を手で押さええます。
- 大きな血管からの出血の場合で、片手で圧迫しても止血しないときは、両手で体重を乗せながら押さええます。

〈ポイント〉

- *止血の手当を行うときは、感染症防止のため血液に触れないように、できるだけビニール手袋やビニール袋を使用します。
- *出血を止めるために手足を細い紐や針金で縛ることは、神経や筋肉を損傷するおそれがあるので止めましょう。

骨折したとき

災害時には倒壊家屋による圧迫や転倒といったことで骨折することがあります。「激しい痛みや腫れがあり、動かすことができない」「変形が認められる」「骨が飛び出している」といった症状があります。

骨折時の応急手当

- 1、部位の確認をします。
- 痛がっているところを聞きます。
- 可能であれば、痛がっているところに変形、出血がないかを確認します。

〈ポイント〉

- *確認する場合は、痛がっているところを動かしてはいけません。
- *骨折の疑いがあるときは、骨折しているものとして手当てをします。

2、固定します。

(添え木・三角巾など)

- 変形している場合は、無理に元の形に戻してはいけません。
- 協力者がいれば、骨折し

ているところを支えてもらいます。

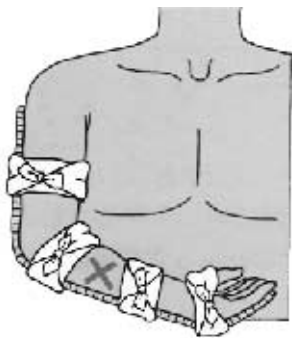
- 当人が骨折した部分を支えることができれば、自ら支えてもらいます。
- 添え木を当てて、三角巾で固定します。

〈ポイント〉

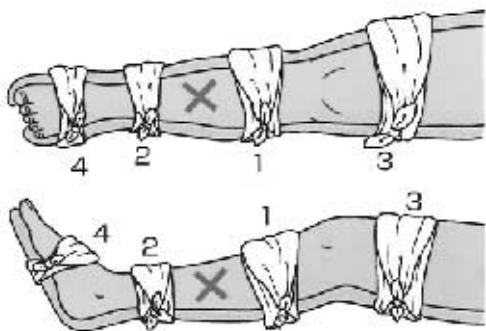
- *添え木は、骨折部の上下の関節が固定できる長さのものを使用します。
- *固定するときは、骨折した方に知らせてから行い、顔色や表情を見ながら固定します。



三角巾などで腕をつる



腕の固定



足の固定

災害時には「自分のいのちは自分で守る」と同時に「周囲の人と協力してお互い助け合う」ことが大切です。万が一のときに役立ててください。

○お問い合わせ

- 健康福祉課保健衛生係
 大方総合支所
 ☎ 43-2836 (直通)
 佐賀総合支所
 ☎ 55-7373 (直通)